

県政モニタートーク結果概要

対話テーマ:新しい暮らし方の提案

日時:令和7年12月11日(木)13時30分~15時10分

参加者数:県政モニター9名(会場参加7名、オンライン参加2名)

県(県民活動生活課)3名

概要

滋賀県では「多様性が最大限尊重された、豊かで自分らしい暮らし方」を「新しい暮らし方」とし、このような暮らし方を一人ひとりがデザインできる社会を目指し、広く県民の皆様にも多様な暮らし方の事例やその背景となる考え方などをお伝えしていきたいと考えています。

暮らしの中での居心地のよい「場」や理想的な「働く場」のイメージをお聞きし、新しい暮らし方を実現に向けての取組の参考とするため、モニタートークを実施しました。

○意見交換1:居心地のよい「場」について教えてください。

- ・自発的に関われ、自身の存在が受け入れられる学びや活動の場。
- ・会話の有無に関わらず、安心して過ごせるパーソナルな空間やコミュニティ。
- ・共通の趣味や目的を通じ、自然な交流が生まれる場。
- ・自身の経験やスキルが活かされ、人や地域に貢献できる場。
- ・否定的な言動がなく、多様な背景を持つ人々が受け入れられる環境。

○意見交換2:理想的な「働く場」のイメージを教えてください。

- ・自由な雰囲気、柔軟性があり、個人の事情(子どもの発熱など)にも対応できる環境。
- ・自分のやりたいことを納得いくまでやらせてもらえ、やりがいを感じられる場。
- ・失敗を認め、様々な挑戦を許容する文化のある組織。
- ・苦手な部分も受け入れられ、お互いに冗談を言い合えるような心の余裕がある人間関係。
- ・困ったときに気軽に質問でき、目の前のことだけでなく、長期的な視点や理念を共有できる環境。
- ・従業員間で不必要な壁がなく、お互いを理解し尊重し合える関係性。
- ・チームワークが機能し、様々な立場の人に声をかけ合い、孤立する人がいない職場。
- ・一人ひとりの意見が尊重され、それぞれの特徴や強みを引き出し、活かし合える場。
- ・働く人すべてが、生き生きと活動できる職場。

最後にいただいたご感想の中で、「参加者が生き生きと話をしているのが印象的だった」や、「今回の意見交換によって明るい未来が想像できた」との声もあり、一人でも多くの方にこのように感じていただけるよう取組を進めてまいりたいと考えております。